

カメラ ま ち の 出 来 事 あらかると

文化薫る成羽の 町並みを走る

(3月1日 成羽文化
センター前スタート)

「第22回体力づくり なりわ健康マラソン」が行われ、2.6kmの町並みコースと4.8kmの神楽コースに分かれ、10部門に過去最高の492人が出場しました。北京オリンピック女子マラソン代表候補になった天満屋の森本 友選手(写真右)も、招待選手で出場。沿道からの声援を受けながら、参加者とともに歴史ある成羽の町並みを駆け抜けました。



日ごろの練習成果を披露

(2月15日 成羽文化センター・神楽館)

「子供神楽発表会」(成羽備中神楽振興会主催)が行われ、保育園から中学校までの46人が1年間練習してきた集大成を披露。演じた14演目の中には、子ども神楽では珍しい「二柱之舞」や「剣舞」もありました。

熱演する子どもたちに、訪れた神楽ファンや見守った家族らは温かい声援を送っていました。

劇や演奏、親子で楽しむ

(3月7日 総合文化会館)

順正短期大学幼児教育科の学生による「高粱子どもフェスティバル」が開かれました。学生らは、劇やアニメ曲メドレーのドリル演奏、ミュージカルなどを披露。親子連れら約800人の来場者は、体を動かしながらステージと一緒に楽しくしていました。同フェスティバルは今回で32回目。





スポーツって楽しいよ！

(2月14日 榎井アーチェリー場 ほか)

市内の小・中学生にスポーツの楽しさを味わってもらおうと、「ジュニアスポーツスクール」(市教育委員会主催)が開催されました。アーチェリー、バドミントン、柔道、剣道の4種目の教室が開かれ、吉備国際大学生が指導。日ごろなかなか体験できないアーチェリーには12人が参加し、指導を受けながら的に矢を放っていました。

また、この日は、ききょうグラウンドで同大学アメリカンフットボール部が「フラッグフットボール」教室を開催。子どもたちと楽しいひとときを過ごしました。

温かい心の大切さに触れて

(3月8日 富家小学校体育館・備中町長屋)

「人づくり講演会」(市教育委員会主催)が行われ、俳優の高津住男さん・真屋順子さん夫妻が「ありのまま、そのままに生きる」という演題で講演しました。脳卒中で半身不随になった真屋さん。夫婦二人三脚で懸命にリハビリし、現在に至った様子や命の尊さを、ユーモアを交えながら語りました。来場者らは、お互いに相手を気遣いながら、感謝の心を大切に二人の温かさに触れ、深く感動したようでした。



お料理するの楽しいね

(2月23日 総合文化会館)

市教育委員会主催の「子育て講座」が開かれました。今年度2回目となる今回は、親子で簡単にできる朝ごはんづくりがテーマ。サケとコーンのおにぎり、野菜たっぷりの豆乳スープ、ゼリーなど、高梁産のコメや野菜をふんだんに使ったメニューで、参加した1~4歳児の親子14組31人がおにぎりづくりなどに挑戦しました。



100歳おめでとうございます

2月18日から3月1日の間に100歳(明治42年生まれ)の誕生日を迎えられた5人の皆さんを市職員らが訪問し、記念品や花束を贈って長寿を祝いました。市内で100歳以上の人は、3月1日現在で36人(男性6人、女性30人)。



加藤 美代さん
(川上町地頭)



西本ヒデコさん
(高倉町田井)

<そのほか、100歳を迎えられた皆さん>

- 森下ハル子さん (小高下町)
- 矢嶋オキヌさん (落合町阿部)
- 綱島 すがさん (有漢町上有漢)